

1 学校教育目標	
<p>広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ人 ・協力しあう人 ・健やかな人 	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	<p>【自ら学ぶ生徒を育む学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を伸ばす学校。 <p>【豊かな心を育む学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感を伸ばし、互いが尊重され、自立心が育まれる学校。 <p>【地域が誇れる学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA、開かれた学校づくり協議会、地域と連携し生徒の健全育成を図る学校。
○児童・生徒像	<p>【自ら学ぶ生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなことに興味・関心をもち目標をもって主体的に学ぶ生徒。 <p>【協力しあう生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識をもち、自らを律することができる生徒。 <p>【健やかな生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を意識し、体力向上に努める生徒。
○教師像	<p>【実践力、指導力のある教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生活指導などに向上心をもち、高い指導力を発揮する教師。 ・保護者や地域との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師。 <p>【情熱ある教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の気持ちに寄り添い、親身で指導にあたる教師。 ・教育環境の変化に柔軟に対応できる教師。 <p>【生徒、保護者、地域から信頼される教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性を理解し、良さを伸ばすことのできる教師。 ・服務規律を遵守し、職務を遂行する教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

統合3年目を迎えるが、生徒たちは日々学習、行事、委員会活動、部活動に精力的に励んでいる。また、授業規律をしっかり創ることができ、大きな問題行動もなく、落ち着いた学校環境が維持できている。

前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着について。日ごろの学習指導、学力向上策により区学力調査結果では目標値に達した。しかし、不安材料が学年、教科によってみられるのでその補強に力強く取り組む必要がある。
- ② 不登校対策については、毎週委員会を開き、管理職やSC、SSWも交えて生徒一人ひとりの状況把握と今後の対策を検討し、それに基づく指導や対応を組織的に行ってきた。その結果は一進一退を繰り返す生徒委が多く、教室復帰へのハードルはなお高いと感じる。また、SC、SSWとの面談や家庭訪問、また関係機関とのつながりなど何らかの社会的接点を維持しながら改善を図ってきた。
一方、今年度からの大きな変化として次の2点をあげる。
 - ① コミュニケーションの教室が開設されることを機に、生徒たちのよりスムーズなコミュニケーション能力の育成を図り、学習指導、学校生活の改善につなげていく。
 - ② また、働き方改革が本格的に始まるが、区のガイドラインにそって職員の心身の健康づくりを進め、充実した教育活動を行っていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。	○	○	○	○	○
2	不登校など学校不適應症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。また、コミュニケーションの教室の活用を始める中でより効果的な指導方法を検討していく。	○	○	○	○	
3	学習指導を中心とする小中連携事業を充実させると同時に、透明性の高い経営を心掛け、新校舎完成を機に地域とのつながりをさらに深め、学校への信頼や期待を高めていく。	○	○	○		

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める）。			
A 今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題		達成度 ◎○△●
全生徒の基礎学力の底上げを図り、区学力調査の通過率を引き上げる。	61.0。年度末に区学力調査を活用して成果を検証する。到達目標は61.0。	区学力調査 通過率64.2%	全体的には良好だが1年の通過率が低く、今後の課題である。		◎

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
1 継 続	学習コンテスト (漢字・計算・スペリング)	全学年	年3回	<p>【指導体制】全教員</p> <p>【取り組みのねらい・内容】 国語(漢字)・数学(計算)・英語(英単語)の学習方法を身につけ、基礎的な内容の定着を図ると同時に、生徒に達成感を持たせ、自己肯定感を高める。</p> <p>プレテストで合格点に達していない生徒については、学年教員によるグループ指導を行う。</p>	プレテスト 本テスト の実施	合格率 80%をめ ざす。	<p>【漢字】 合格点 80 点 (1年 70 点) の達成率 1年 91% 2年 88% 3年 96%</p>	80 点未満の生徒のうち、練習経験不足の生徒が目立つ。事後の補充教室等も含めて時間の十分な確保や教材プリントの活用の幅を広げた指導方法を考えていく。	◎
							<p>【計算】 合格点 80 点の達成率 1年 71% 2年 75% 3年 48%</p>	1 年は数値目標は達成できなかったが再テストを含めると 90%の生徒が合格した。学年体制でのグループ指導の効果が表れたと考えられる。 2 年は 80 点未満の生徒のうち、1 年次の既習事項が定着していない生徒が多いのが課題。継続して指導していく。	○

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
2 継 続	家庭学習 (ノート) の充実	全学年	毎日	<p>【指導体制】全教員</p> <p>【取り組みのねらい・内容】学習の基本となる授業内容の理解と定着を図る。</p> <p>毎日1ページ以上の家庭学習を行い、始業時に提出、午前中に点検し、返却する。一人ひとりの学習の状況に応じて、学習内容のアドバイスをを行う。</p> <p>実施できていない生徒には、その日のうちに確実に学校で学習させる。</p>	毎日のノート点検	提出率 100%を完全実施する。	90%以上の生徒が提出し、全生徒がその日のうちに提出するようにしている。	学習内容が充実してきた生徒が増えてきた。	○
3 継 続	家庭学習 (国語受 験問題)の 充実を図 る	3年 国語	10回 (4月～11 月)	<p>【指導体制】教科担任(国語)</p> <p>【取り組みのねらい・目的】「要点の整理」付き練習問題集を計画的に取り組むことで国語力の向上を図る。</p> <p>【使用教材】問題集1冊</p>	4回の定期テストに問題を取り入れ、達成度を確認する。	全10回の提出率 90%。各定期テストにおける正答率 70%の5割達成をめざす。	提出率93% 正答率 5割達成65%	全体的に意欲的に取り組んでいた。入試問題への導入・意識づけはできたと考える。生徒の実態を鑑み、定期テストへの出題は前期中間までとし、実力を図るためにそれ以外は初出の問題に変更した。	○

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
4 継続	国語ベーシック (朝読書)	全学年 国語	6・11・2月 始業前10分	<p>【指導体制】担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 読んだ本の中から1冊選び、感想文を200字以内で書く。内容を踏まえ、自身が感じたこと、考えたことを丁寧に自分の言葉で述べる。</p> <p>【使用教材】絵本や漫画本、辞典等以外の書籍類。</p>	読書カード。評価基準にそって評価する。	全員提出 100%。B以上の評価9割以上をめざす。	提出率 100% B評価以上 1年 70% 2年 71% 3年 81%	「朝読書」は5月、12月、2月の3回実施。他の教科とのバランスもあるが、できればあと1回増やしたい。図書室も蔵書の充実やブックトークなど、定期的に実施しているので、連携を図りつつ進めたい。1年生は、文章を書くのが苦手な生徒が多い。2年生は未記入生徒が5名ほどいた。	○
5 継続	漢字力向上(小テスト)	全学年 国語	週1～4回 (5分程度)	<p>【指導体制】教科担任(国語)</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 漢字力の向上。「書ければほぼ読める・大まかな意味も把握できる」をねらいとする。</p> <p>【使用教材】 ・ワークの漢字練習のページをもとに範囲表を作成し、小テストを実施。 ・1回の範囲を15問程度で区切り、そのうちの10問を出題。例文を聞き取って書く方式。 ・テスト実施後、短時間の練習。 ・テストまとめ用冊子を作成。答案・練習用紙の貼付、得点の記録。</p>	10回で1ステージとし、終了したら、「小テストの振り返り」を生徒自身に行わせる。	1ステージを通して平均7点以上(正答率70%)の5割達成をめざす。	全学年実施 平均7点以上(正答率70%)の5割の達成率 1年 100% 2年 98% 3年 100%	「書き取り」を中心に取り組んできた。1,2年は毎回の宿題として、17程度の例文を2回練習してテストを受けるという過程を積み重ねてきた。家庭学習の一環としての取り組みなので、きちんと取り組んでくる生徒とそうでない生徒との差も出てきている。特に漢字が苦手な生徒にとっては、マイナスの面(苦手意識)が強くなるので、読みや訓読みの学習もとり入れながら学習意欲を向上させたい。	◎

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
6 継続	読解力向上	1・2年 国語	各単元終了後	【指導体制】国語科 【取り組みのねらい・目的】 ・読解力・応用力強化 【使用教材】 ・国語の学習（ワーク）等	習った範囲の問題を解かせ問題を選んで解説する	類似問題を定期テストで出題し、正答率60%達成を目指す。	・定期考査「読解部分」平均点(3回考査分) 1年 61点 2年 62点 3年 45点	さらに効果的方法を試行錯誤しながら「ワーク」等を活用していきたい。3年の読解部分は、作文問題と言語を抜いた約70点分の結果。初出問題に対する応用力が欠ける。	○
7 継続	数学ベーシック (数学Week)	全学年 数学	数学Week (毎月土曜授業のある週)の火～金の始業前10分間	【指導体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 現在取り組んでいる単元の内容の基礎の確認を行う。学力低位層はヒントを基に自ら課題に取り組みせ、中位層～上位層は計算力の向上を図る。 【使用教材】市販教材『数学のサポーター』	土曜授業の始業前10分間 まとめテストを実施	毎回のまとめテストに目標値(60～80%程度)を設定し、放課後補充を含めて全員合格させる。	【1年】 再テストを含めて実施した生徒については全員合格をした。 【2年】 目標未達生徒 5月 23名 6月 17名 7月 19名 10月 38名 【3年】 目標未達生徒 5月 14名 6月 12名 7月 11名 10月 24名	1年はまとめテスト本番での合格率は65%だった。再テストを含めて全員合格は達成できたが、まとめテスト本番での合格率を高める必要がある。2年は放課後補習で補充指導を行っている。それでも合格できない生徒へは継続した指導が必要である。3年は放課後補習においても合格できない生徒がいた。継続指導が必要である。	○
8 継続	数学レベルアップ塾	3年 15名程度 数学	毎週火・木曜の放課後	【指導体制】各学年数学科、学習支援ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 学力中位層の生徒に声かけを行い、少人数で反復・確認を行い基礎学力の向上を図る。 【使用教材】プリント教材	単元ごとの確認テストの実施	単元ごとの確認テストで全員達成率100%	1年は後期中間考査前に1回実施	実施回数が少なく効果が表れたとは言えない。年度末までに実施回数を増やしていく	△

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
9 継続	英語ベーシック (英単語)	全学年 英語	毎月第2 週火～金 始業前10 分	<p>【指導体制】担任、学年教員</p> <p>【取組のねらい・目的】基本的な語彙の習熟と定着</p> <p>【使用教材】英単語オリジナル教材</p> <p>【手順】週毎にレベルを指定。</p> <p>①全員で単語を読み上げ発音確認</p> <p>②ペアで口頭試験をする</p> <p>③単語を書き取る練習</p> <p>④定着テストを行う</p>	金曜にレベルごとのテスト実施	80%以上の得点で合格とする。全員の合格を目指す。	単語テストを10回実施。初回の合格率は1、2学年で5割程度(9月55%、11月54%)	追試で結果的にすべての生徒に合格させている。英語の力、というよりは自力で勉強するという意識が欠落していることが根本的な課題と考える。筆記テストの前に音声によるチェックを習慣づけていることが一定の効果を見せている。	○
10 継続	英語ベーシック (ワードサーチ)	全学年 英語	本校で指定された英語担当週で実施可能日が4日未満の時や1学年の初期導入	<p>【指導体制】担任、学年教員</p> <p>【取組のねらい・目的】語彙の拡充と定着</p> <p>【使用教材】Enjoy Wordsearch (本校オリジナル)</p> <p>【手順】パターン1 (入門期)：ワードサーチを解く。パターン2：ワードサーチを作成する。翌日はペアで問題を交換し、解く。</p>	学期に2回	実施生徒100%をめざす。	学期に2回、実施した。	すべての生徒が大変意欲的に集中して取り組む課題である。	◎

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
11 継続	英語 放課後補充	全学年 上記英語ベーシック(英単語)で正答率80%未満の生徒、教科内での小テスト等で不合格の生徒や個別指導が必要な生徒 英語	放課後補充 実施日	【指導体制】当該学年英語科教員、学年教員 【取組のねらい】理解が不十分な生徒へのフォローアップ、学習方法に関するカウンセリングとアドバイスおよび実践を図るため。 【使用教材】ワークシート、アルファベットカード、センテンスビルディングカード(本校オリジナル)	ベーシックタイム(英語)を行った翌週 年15回	目標値80%を設定し、全員の合格を目指す。	年10回実施。授業進度と連携して単語や熟語、文型練習を行った。	低学力層への学習時間の確保と音読指導をしたのが効果的であった。授業や授業への波及効果が見られた。	◎
12 継続	英語 放課後補充	1年 英語	放課後補充 実施日	読解課題、塗り絵、読解に必要な既存知識を増やす単語練習、英語を素早く正確に書き取る練習	放課後補充 実施日	授業と連動して取り組ませる。	LEADを活用した読解問題やリスニング、語順演習等を4回行った。	LEADFおよびORT等の読解教材を図書室等に配備したことで、多読に親しませる効果が見られ、長文に対して諦めたり投げ出す生徒が減少している。	○
13 継続	基礎学力定着(単元テスト)	全学年 社会	年10回程 度	【指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・内容】大單元ごとに、基礎的な内容の定着を図るために、小テストを実施する。	授業内で小テストを実施する。	正答率70%をめざす。 正答率80%以上の生徒数を全体の50%にすることをめざす。	<u>3年 4回</u> 正答率52% 正答率80%以上29% <u>2年 3回</u> 正答率35% 正答率80%以上6% <u>1年 21回</u> 正答率59.4% 正答率80%以上35.4%	・小テストに向けて勉強するという姿勢が、学年が上がるにつれて身についてきた。[3年] ・小テストを行うことで知識理解の定着がみられ、定期考査での平均点向上につながった。[1年]	△

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
14 継続	理科用語 理解	全学年 理科	毎時	理科用語で用いられる漢字の意味を紹介する。機械的な暗記にするのではなく、漢字のもつ意味をかみしめながら、理科用語を学ぶ。	小テストや定期テストでの正答状況	小テストや定期テストでの正答率60%を目指す	2年：小テスト90%、定期テスト用語などの正答率76%	2年：他教科と同じようにペアワークを取り入れているため、授業や放課後補習いずれにおいても、ペアワークへの取り組みが良い。用語の反復練習だけでなく、今後もペアワークを取り入れていき、身近ではない理科用語に対する戸惑いを減らしていく必要がある。	◎
15 継続	基礎学力 定着 (単元テスト)	全学年 理科	単元の区 切り(5分 程度)	【指導体制】教科担任(理科) 【取り組みのねらい・目的】基礎力の向上をねらいとする。 【使用教材】 ・单元ごとの市販の小テストを実施。 ・テスト実施後、相互採点、得点の記録。 ・家庭学習ノートに小テストの内容を書かせ、反復学習に取り組みさせる。	小テストの振り返りを生徒自身に行わせる。	正答率60%を目指す	正答率の平均 1年 42% 3年 62%	定着度を見るため予告なしで行った。1年厳しい生徒がおり課題が多い。予告をして行うと復習をしてくる生徒が増える可能性がある。	○
16 継続	音楽 実技補習 練習	全学年 音楽 技能の習得に時間が必要な生徒	期末2回 放課後	【指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・内容】理解に時間がかかる生徒技能の習得に時間がかかる生徒がいるので、一つ一つの課題を出来るようになるという成功体験を積みせ、次の活動の意欲を高める。	テスト (技能の確認)	学期末までに実技評価B以上の生徒、90%以上をめざす。	1年リコーダーで前期に1回実施。	今年度、リコーダーの取り組みを主に1月以降に行っているため、補充として1回しか実施できていないが、細かい技能の習得の積み上げが必要なので、今後も継続していきたい。	△

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
17 継続	音楽の基礎力をつけよう	全学年 音楽	学期に1回 放課後	<p>【指導体制】教科担任</p> <p>【取り組みのねらい・内容】</p> <p>①題材毎に、学習内容の理解を深める目的で、小テストを実施し、くり返し実施することで、学習内容の定着を図る。</p> <p>②音楽活動に必要な基礎的な力【読譜力】の向上をめざし、クラス・学年・全校全体で、より良い音楽活動をめざし、楽譜が読めないわからないという生徒をなくし、意欲的に音楽の学習に取り組めるようにする。分野別のテストを基に、放課後再テスト、もしくは学習を行う。</p>	授業内で小テストを行い、目標値に達成しなかった生徒を対象に、学習を行い、再テストを実施する。	全員が、正答率80パーセント以上をめざす。	<p>①2年2回実施。 正答率 1回目 79% 2回目 84%</p> <p>②1年リコーダーの運指と記譜の確認を1回実施 平均正答率78%</p>	<p>①1回目と2回目は違う内容であり、問題数も多かったが、平均正答率が上がった。これには、テストに向けてここが家庭学習などで努力した結果であると考えられるので、小テストを通して学習時間を増やし、そのことで定着へとつながっている効果が考えられるので、今後も継続していきたい。</p> <p>②授業内で、繰り返し確認が行えるように指導の工夫をした。</p>	○
18 継続	美術 実技補習 練習	全学年 美術科 制作進度の遅れにより 作品が完成していない 生徒	課題末2回 放課後	<p>【指導体制】教科担任</p> <p>【取り組みのねらい・内容】</p> <p>制作進度の遅れから、自らのイメージを最後まで追求できない生徒に対し、納得のいくまで制作し、自身の美意識の追求と達成感を味わうことによって、次の課題への意欲や美意識の向上を培う。</p>	作品鑑賞(技能の確認)	学期末までに関心意欲、創造的な技能の評価B以上の生徒、80%以上をめざす。	ほぼ達成	補習を行った結果、作品の完成は数人を除き、最後まで仕上げる事が出来た。各学年の2,3人を最後まで仕上げさせることが課題である。	○

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
19 継続	保健体育 保健分野 補習	全学年	各定期考 査前	【指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・内容】 定期テスト前に補習を行い、 各内容の復習を行う。重要 事項の確認をし、テストに 臨ませる。	定期テス ト結果	保健分野 70%の正 答を全員 がクリア できるよ うにする。	達成率 3年 72%	授業の工夫を行い、全員 がクリアできるようにす る。	○
継 続	技術家庭 補習製作	全学年 技術・家庭科 (技術分野) 作業進度遅 れ	学期末3 回 放課後	【指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・内容】 作業進度の遅れから、やる 気をなくさないよう、次の 授業までに作業の遅れを取 り戻し、授業中に行う作業 工程や説明を理解できるよ うにする。	作品点検	年度末ま でに生徒 一人ひと りの製作 目標の達 成率が 90%以上 を目指す。	達成率 1年 93% 2年 95%	実技作業の節目ごとに遅 れを取り戻すために補習 を行い、進度調整を行っ た。特に欠席生徒につい ては次の授業で支障が出 ないようフォローを行っ た。	○

重点的な取組事項－2		不登校など学校不適應症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。また、コミュニケーションの教室の活用を始める中でより効果的な指導方法を検討していく。			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	大きな問題行動がなく、落ち着いた学校環境を維持する。また不登校生徒への対応を丁寧に行い、社会的接点を維持しながら一歩ずつ状況の改善を図っていく。	大きな問題行動はゼロ。何らかの社会的接点を保ちながら、状況改善が図れた生徒の割合を不登校生徒全体の80%以上。	大きな問題行動はゼロ。 「改善状況」は別室登校や本人面談が定期的にできるようになったと考えたと40%程度だが、電話連絡、家庭訪問、SC、SSWとの協力体制など可能な限り尽力したことを評価したい。	学校以外の場も含めて社会的接点を増やす努力を最大限している。しかし明確な原因がつかめないケースもあり、対応が難しい。また上級生ほど不登校が現状固定化する傾向があり、「変化」が困難になっている。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめや大きな問題行動対応	大きな問題行動ゼロ。いじめ事案の100%解決。	<ul style="list-style-type: none"> 学校独自のいじめアンケート（毎月）実施 迅速な聞き取りと指導を対策委員会の指揮下で実施。 	大きな問題行動はゼロ。いじめ事案についてはその都度解決に向けて対応できた。	生徒間トラブルや校外での生活指導上の課題がいくつかあったので引き続き指導していく。	○
不登校の未然予防と対応	新たな不登校生徒の出現率は全校生徒の3%以内。	<ul style="list-style-type: none"> 登校しぶり状態からの早めの対応。 SC, SSWと連動して原因を早く捉え、登校できる環境づくりを進める。 	新たな不登校生徒は1年中心に数名。全校生徒の約2%。	休みがちになるとすぐに様々な形で対応しているが、くい止めるのが非常に難しい。	○

重点的な取組事項－3 学習指導を中心とする小中連携事業を充実させると同時に、透明性の高い経営を心掛け、新校舎完成を機に地域とのつながりをさらに深め、学校への信頼や期待を高めていく。

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域小学校から入学する生徒の高い割合を維持する。また、地域行事でのボランティア活動への高い参加率を維持する。	地域小学校からの平均入学率 65%。また、延べ220名を越えるボランティア活動参加生徒。	地域小学校からの平均入学率は70%を超えた。ボランティア活動参加生徒は延べ237名であった。	新校舎の影響だけでなく教育の質で選ばれる学校にさらに努めていく。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習の接続を図り、中1ギャップの解消を目指した小中連携事業の推進	地域小学校からの平均入学率 65%	<ul style="list-style-type: none"> 年6回の合同研修会および中学校体験入学などの実施 小中共通の足立スタンダードに基づく授業研究の実施。 	地域小学校からの平均入学率は70%を超えた。	新校舎の影響だけでなく教育の質で選ばれる学校にさらに努めていく。	◎
地域行事でのボランティア活動	延べ220名を越えるボランティア活動参加	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への生徒ボランティア活動の積極的な参加と行事での児童など異年齢交流の活性化。 	ボランティア活動参加生徒数は延べ102名。	台風により地域行事が中止になるケースもあり、ボランティア参加者も減少。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。

概ね良好に推移しているが、9月の区学力調査の再調査では、1, 2年の数学に未定着者が多くいることが判明した。今後も全体の底上げを図りながら、個別指導が必要な生徒への対応を積極的に図っていく。

重点的な取組事項－2 不登校など学校不適応症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。また、コミュニケーションの教室の活用を始める中でより効果的な指導方法を検討していく。

中学校の新しい環境に慣れないままに不登校が始まる傾向がみられる。コミュニケーションの教室は着実に運用されている。すぐに効果が出るものではないが地道に続けていきたい。

重点的な取組事項－3 学習指導を中心とする小中連携事業を充実させると同時に、透明性の高い経営を心掛け、新校舎完成を機に地域とのつながりをさらに深め、学校への信頼や期待を高めていく。

基礎学力不足が気になる新入生など小中連携の新たな課題である。また従来より広い範囲から関心をもたれており入学希望者が増加している。将来にわたってこの地域を担う人材育成のために今後も地域への貢献活動を進める。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

開校して3年目。いよいよ新校舎のもとでの生活が始まりました。地域に根ざして、地域に貢献できる生徒の育成を目指して日々教育活動に取り組んでいます。学習面、生活面でも概ね良好ですが、そうした中でも課題を見出し、保護者とともにもその解決に全力で当たっています。

江北地区唯一の中学校として、地域の小学生が憧れる中学校になるべく今後も地域社会や地元小学校との連携を深め、9年間で子どもたちを育てて参ります。今後も本校教育活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・学習面を最も重視し、授業規律および授業内容の充実を図ることで学力の向上を図ってきた。

開校以来3年間で区学力調査結果は着実に上昇している。しかし、1, 2年の学習状況に不安があり、その補強を授業外の取組みも含めて図っていきたい。

・生活指導面では一部の学級や授業で落ち着かない場面がみられたり、生徒間トラブルが発生したりするが、真面目に取り組む大多数の生徒の質をさらに高めることでその中に取り込んでいきたい。

・学校行事、学年行事では生徒のリーダーを中心に、創り上げる喜びを得させ、達成感や充実感を味わうことで次に繋げていく教育活動を継続していく。

・また生徒が意欲的に取り組む部活動では、日々の練習を充実させ、結果を出すことで活動意欲をさらに高め、学校生活への良い効果を生んでいきたい。